2021年
コロナ禍での看護学生の現状と必要な手立て

～看護学生全国実態調査の報告～

全日本民主医療機関連合会　https://www.min-iren.gr.jp/
きらり看護　https://kirarikango.com/

民医連

2021年12月1日　PRESS Release

ABOUT US

全日本民主医療機関連合会について

全日本民主医療機関連合会(民医連 min-iren)は、
無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す民間の医療・介護事業所が加盟する全国組織です。(1953年創設)

47都道府県すべてに事業所があり、看護学校もあります。
[北海道・秋田・山梨・東京(千葉)・京都・大阪・岡山・福岡]

この間全国で毎年千人を超える看護職員を迎え入れており、学生時代から共に育ちあう為の企画や交流も重視しています。学業をサポートする目的で、加盟法人の方針や人事政策に沿った独自の奨学金制度も運用しています。

https://www.min-iren.gr.jp/ikei-gakusei/kangakusei/index.html

■ 民医連の組織現勢
全日本民医連加盟事業所数
2020月12月現在

区　分	事業所数
病院	142
有床診療所	13
無床診療所	473
歯科	78
訪問看護ステーション	241
保険薬局	350
薬剤・診療材料センター	33
看護・介護学校	8
検査センター	2
老人保健施設	51
介護医療院	1
在宅介護支援センター	24
特別養護老人ホーム	37
鍼灸所	3
研究所	2
ヘルパーステーション	52
グループホーム	21
在宅介護福祉関係施設	216
ケアハウス	11
その他	13
合　計	1,771

調査目的など

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、明日の看護職を目指す学生たちの生活と勉学環境にもより深刻な影響を及ぼしているのではないかと考え、看護学生が置かれている現状を把握するための全国実態調査を昨年に続き、実施したので報告する。

名称：コロナ禍における看護学生全国実態調査

調査目的　：コロナ禍における看護学生の実態把握

対象　　：全国の看護師等学校養成所の学生（看護学生）

（看護師養成所への調査依頼、ＳＮＳ発信など）

調査期間　：2021年7月～9月

調査方法　：Web調査（googleフォーム）

◎結果は、特定の個人が識別できないように集計・分析した。

報告の柱

Ⅰ.経済状況について
Ⅱ.奨学金について
Ⅲ.アルバイトについて
Ⅳ.コロナ禍での生活の変化について
Ⅴ.コロナ禍での学業・実習について
Ⅵ.要望

＜集計概要＞

- 回答数**1,347**名
- **46**都道府県、**231**の看護師等学校養成所の学生（看護学生）から回答を得た

	回答者の学校種別		
4年制大学	公　立	4.5%	18.0%
	私　立	13.5%	
短期大学	公　立	0.4%	5.0%
	私　立	4.6%	
専門学校	公　立	18.7%	63.2%
	私　立	44.5%	
5年一貫校	公　立	0.5%	11.2%
	私　立	10.7%	

※2020年調査結果と一部対比した。
実施期間：2020年8月、回答数：1,127名
調査対象：46都道府県の看護師等学校養成所の学生（看護学生）

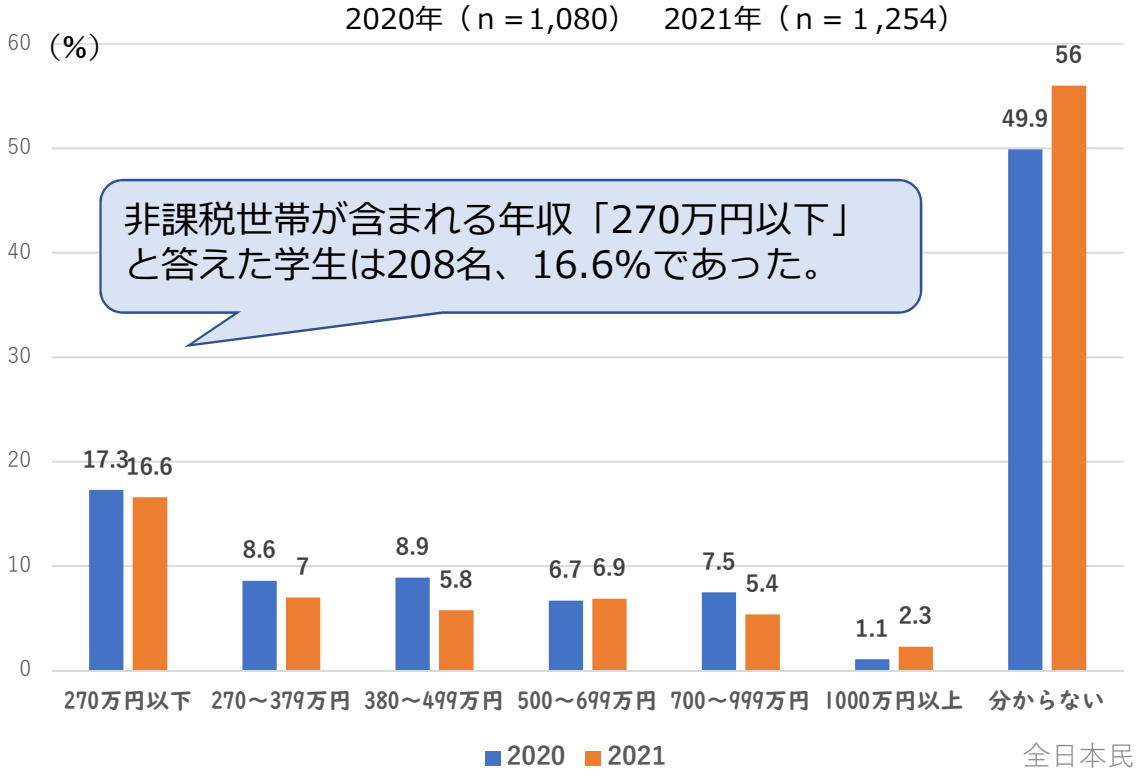
Ⅰ　経済状況について

1.親などからの経済的援助をうけていますか？　（n=1,316）

援助を受けている学生　60%

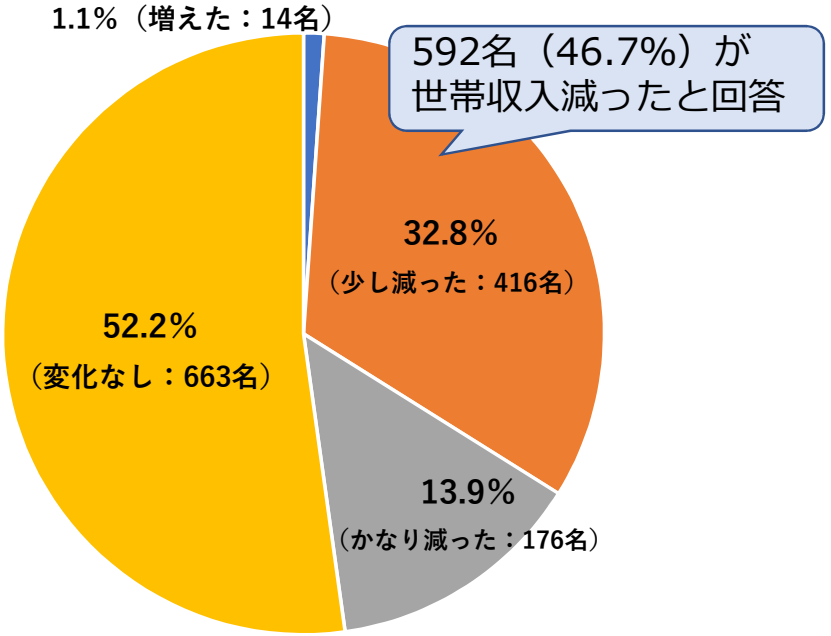
4割の学生は、親などから経済的支援を受けていない

2.世帯の年収を教えてください



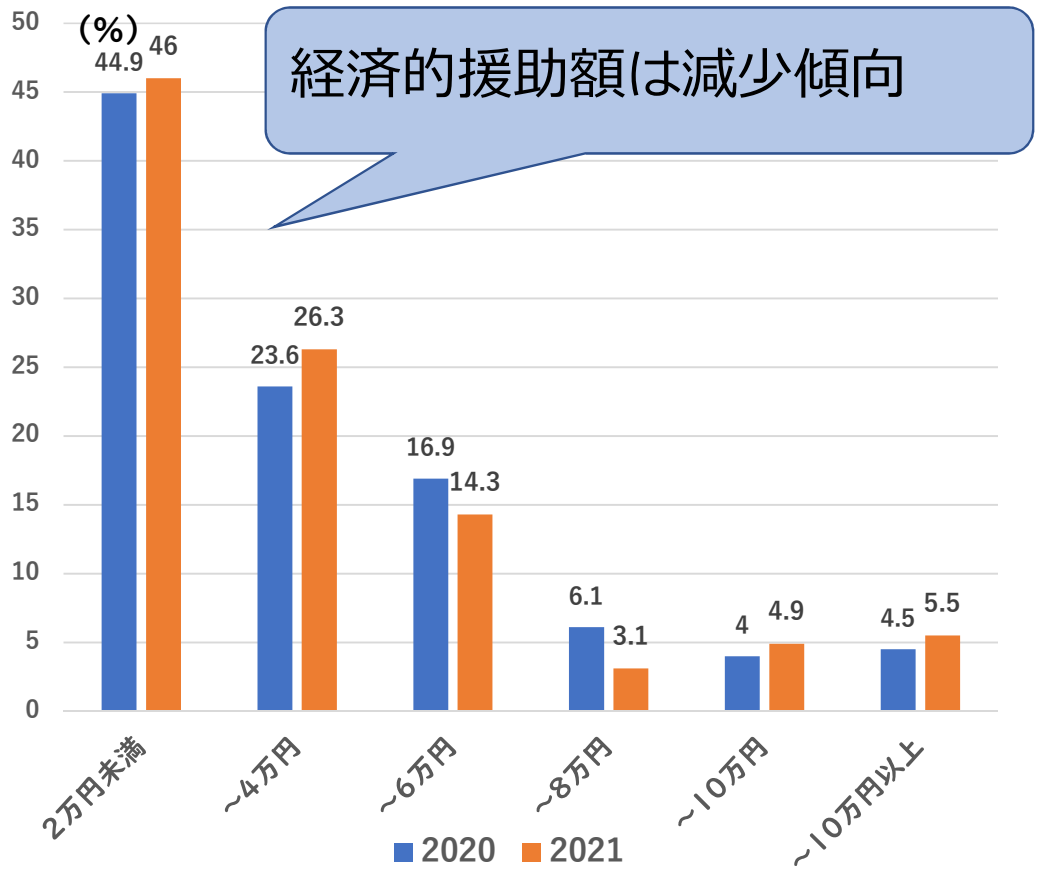
非課税世帯が含まれる年収「270万円以下」と答えた学生は208名、16.6%であった。

3. コロナ禍前と現在で世帯収入の変化はありましたか？　n＝1,269



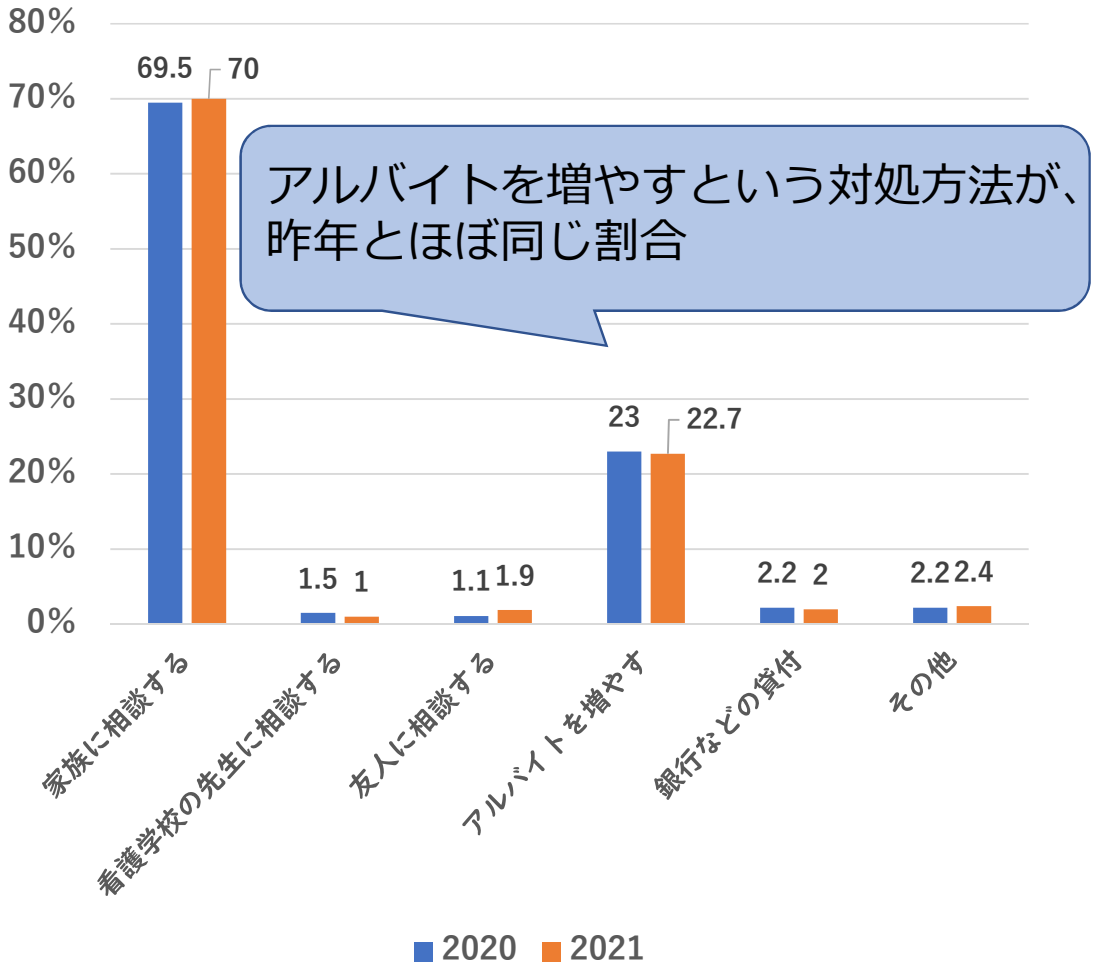
4.親からなどから受けている経済的援助の、1か月のおおよその金額はいくらですか？

2020年（n＝602）　2021年（n＝742）



5.経済的に困った場合の対処方法

2020年（n＝1,112）　2021年（n＝1,311）

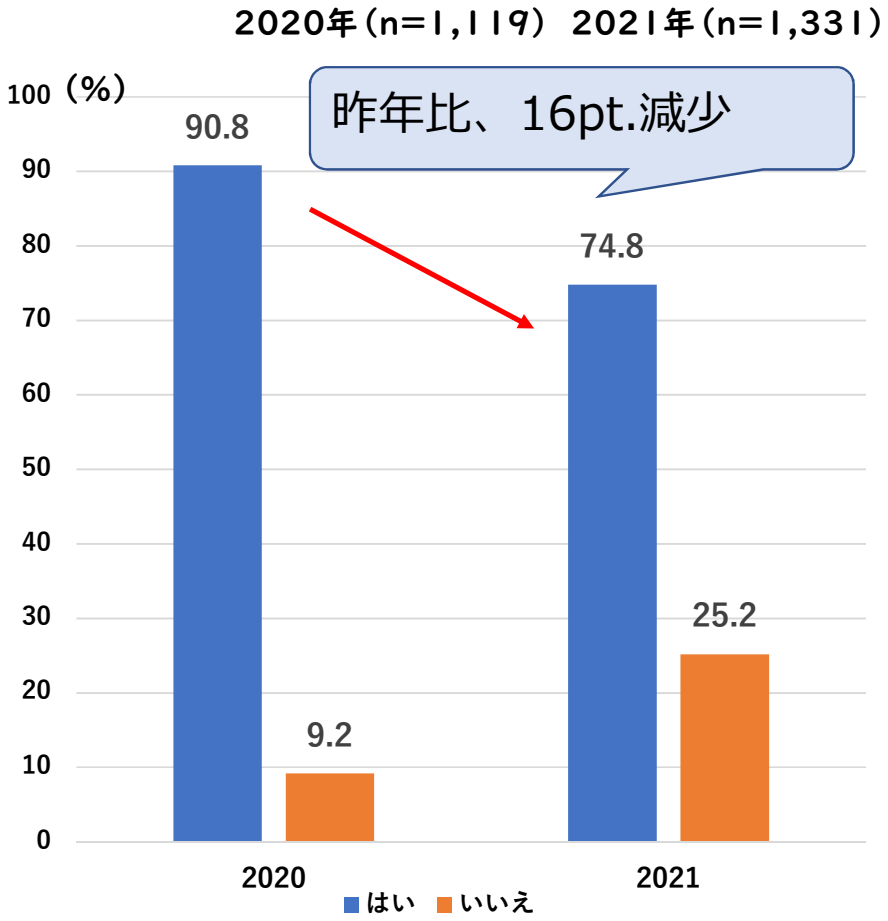


Ⅰ.経済状況の小括

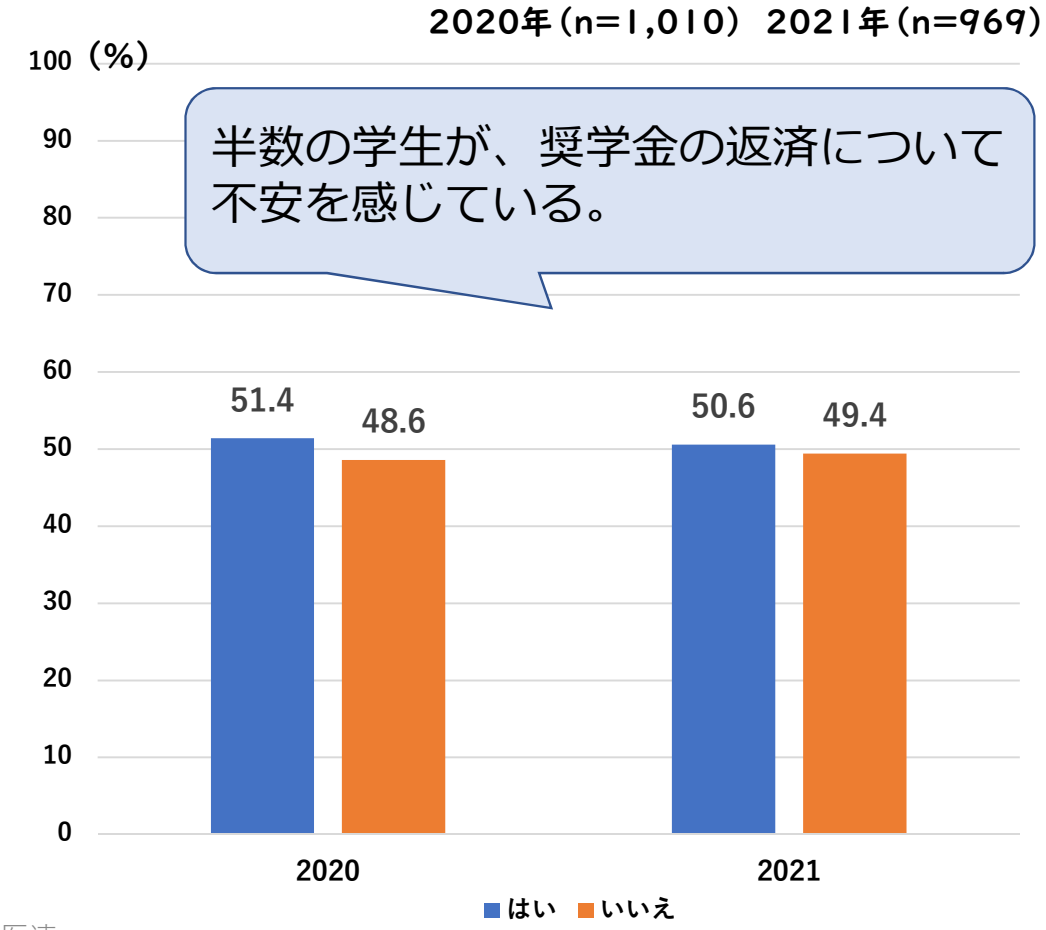
- 世帯収入がかなり減少したと179名（13.9%）が回答した。約半数が、世帯年収が減ったと回答しており、コロナ禍の影響の大きさと深刻さがうかがえる。
- 親などから受けている経済的援助額は減少傾向であることを併せると、学生とその親双方の困難な生活状況が浮き彫りになってくる。
- 学費の総額は、高額であり、経済的困窮で在籍することに困難をきたしている。そもそも学費を事由に看護職を目指す夢を諦めざるを得ないという学生もいた。
- 食費を削る、貯金を崩すなど切り詰めた生活を強いられている。

Ⅱ　奨学金について

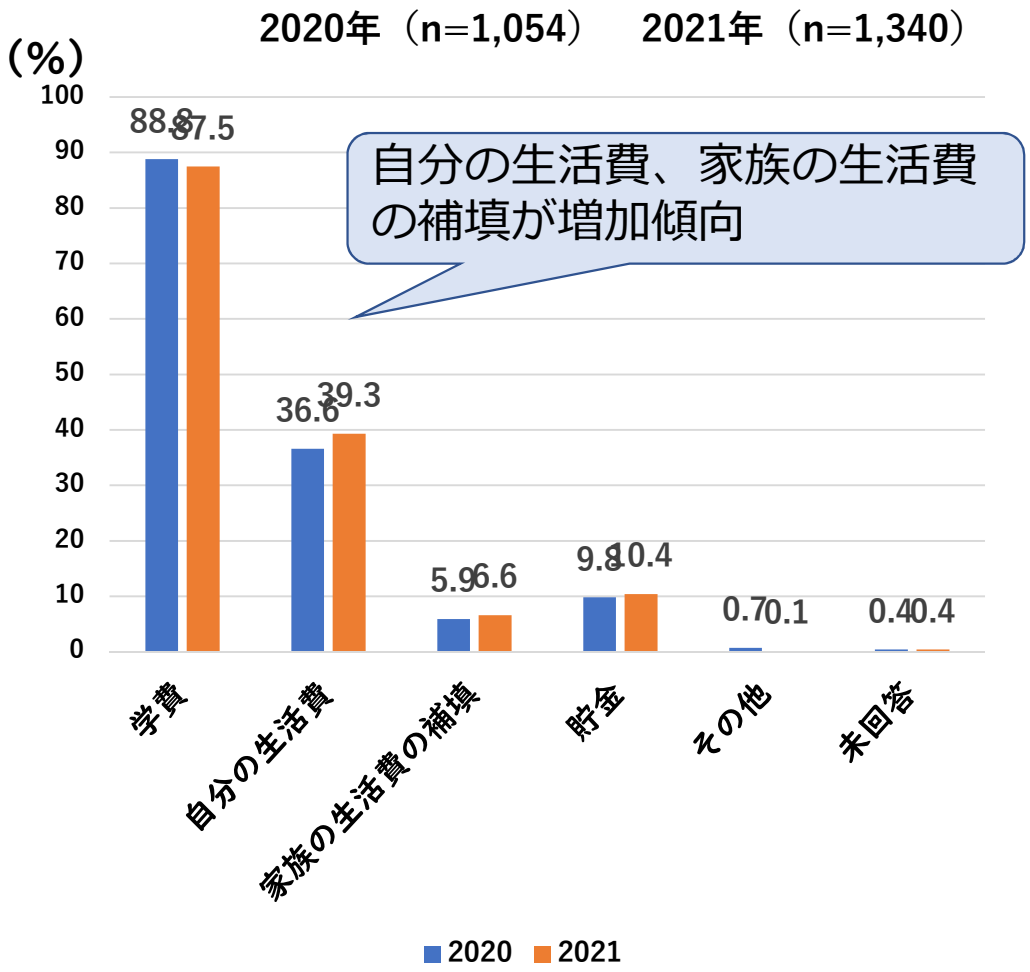
1.奨学金を受けていますか？



2.奨学金の返済について不安を感じていますか？



3.奨学金の主な使途（複数回答） 4.学費について思う事・奨学金への希望（自由記載）



＊学費が高い。高すぎる。（73名）
＊奨学金制度充実を求める （56名）
- 奨学金の利子は免除してほしい。
- 奨学金の利子が高い。
- 返済免除してほしい。
- 返済額が減ると嬉しい。
- もっと給付型の奨学金制度を多くの人が受けられるシステムになればいい。

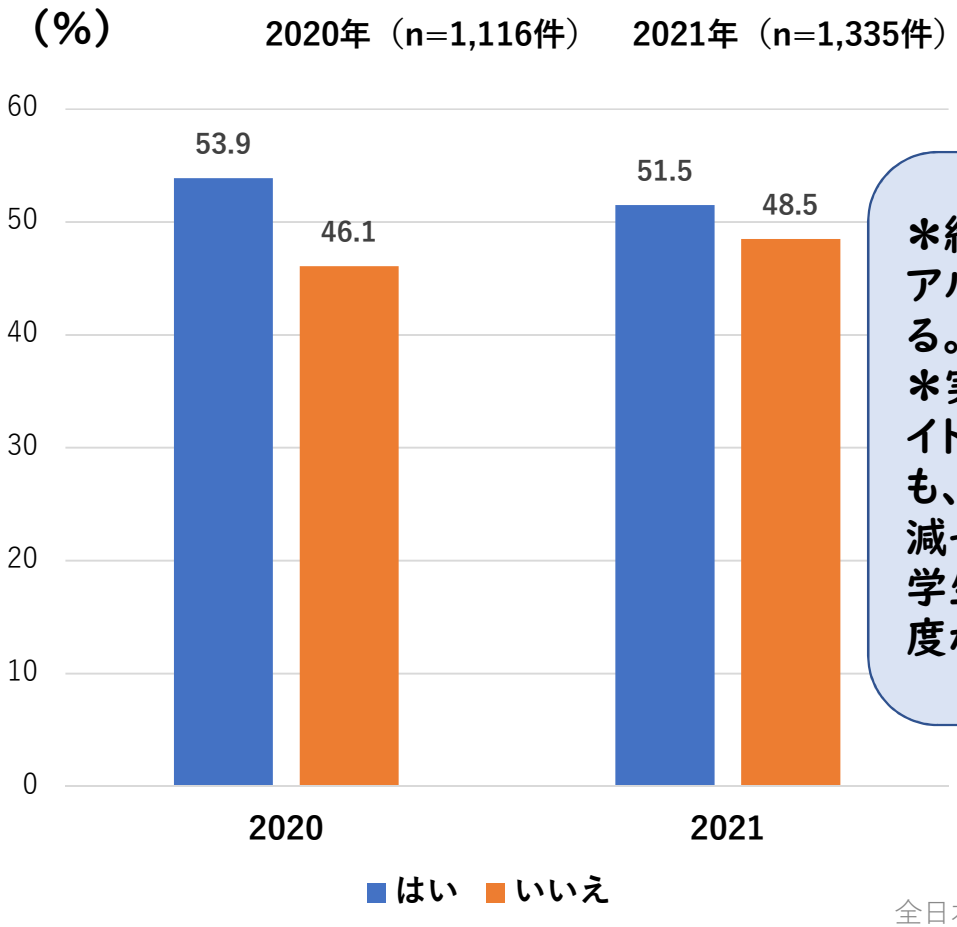
＊学費下げてほしい
- リモートが増えたことによる資料等の雑費の自己負担分を学費など減額してほしい。
- 実習行かなかった分、実習費用負担減らしてほしい。
- 学校に行けなかった期間の施設費の負担は減らしてほしい。

Ⅱ.奨学金の小括

- 親などから経済的援助を受けていない学生は4割であり、昨年比変化なかったが、奨学金を受けている学生は、昨年比16pt.減少した。
- 学費が高い（73名）、給付型の奨学金へ（56名）の切実な声が寄せられた。
- 奨学金の返済について不安を感じている学生が約半数を占めていた。
- そもそも学費に使われるものが、生活費の補填(家族含)や返済の為に貯金をする人の割合も多い事が判った。
- 「給付型奨学金があればよかった」という学生のコメントもあり、貸与型という借金を背負う制度は看護学生の学業を支援するものとしては不十分である。

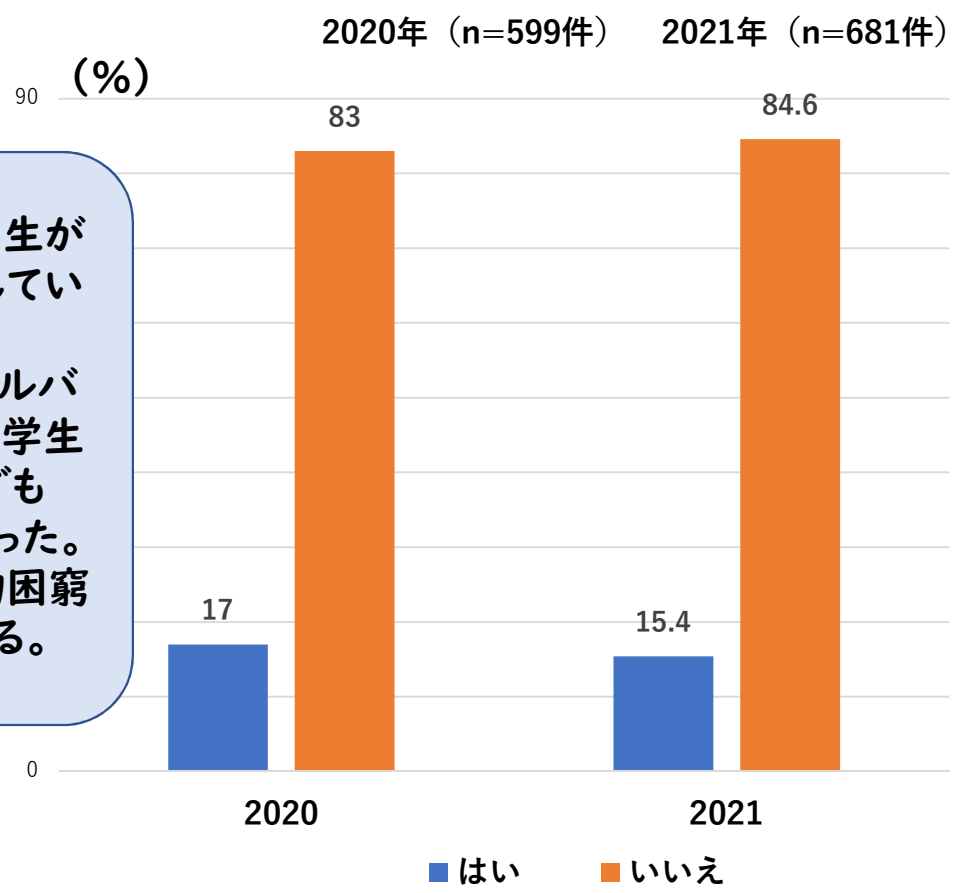
Ⅲ　アルバイトについて

1.アルバイトをしていますか？



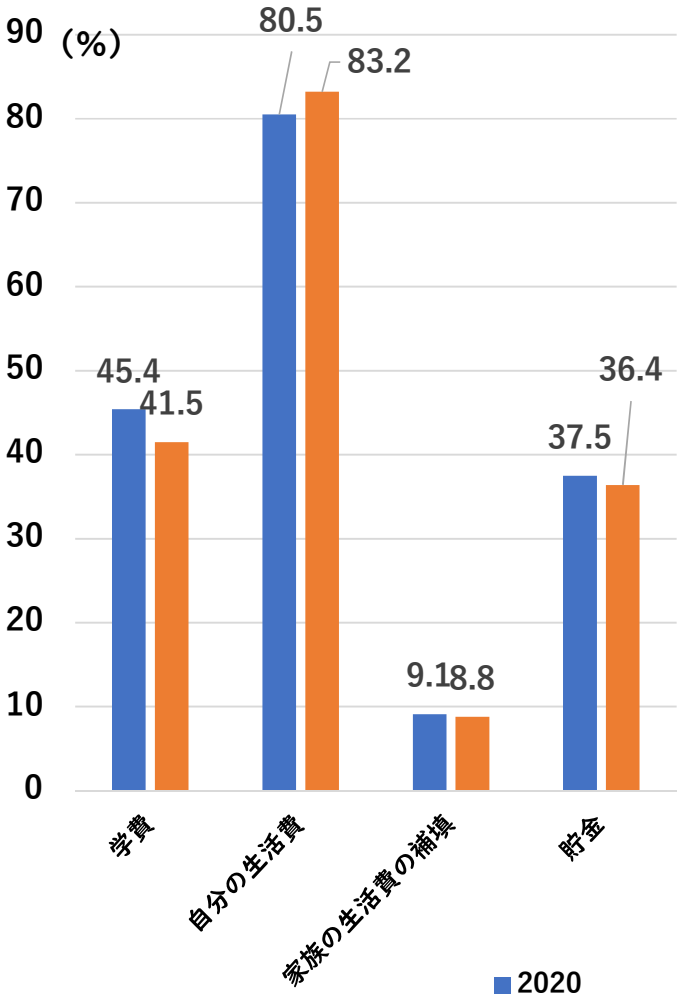
＊約半数の学生がアルバイトをしている。
＊実習時にアルバイトをしている学生も、コロナ禍でも減っていなかった。学生の経済的困窮度がうかがえる。

2.実習時にアルバイトをしていますか？



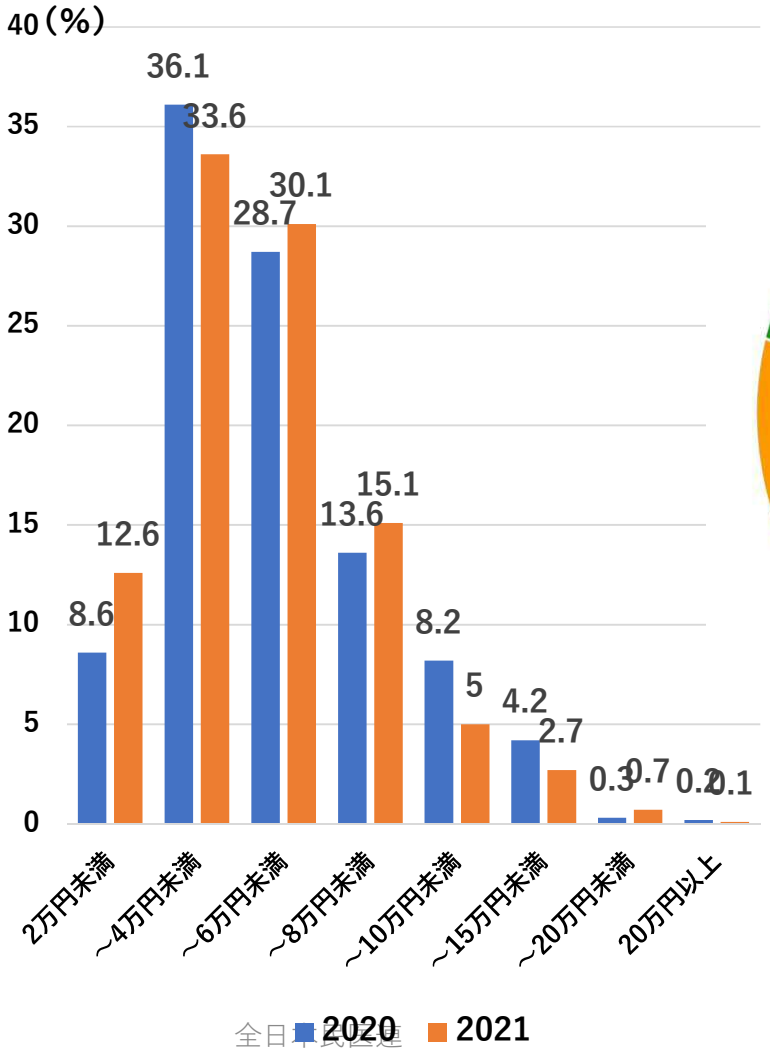
3．アルバイトの目的について（複数回答）

2020年（n＝606）　2021年（n＝684）

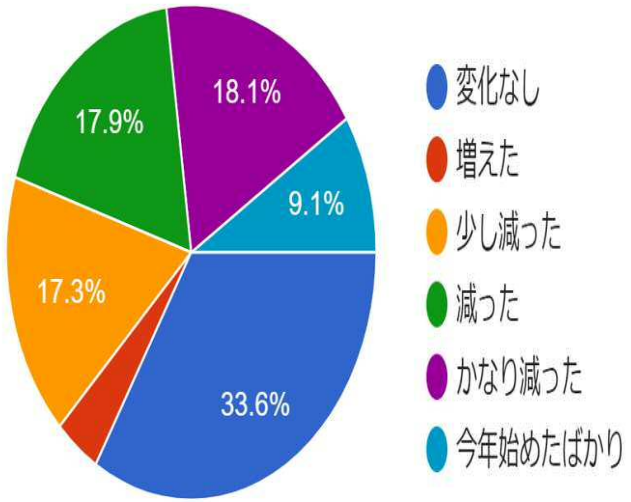


4．1ヶ月のおおよそのアルバイト収入はいくらですか？

2020年（n＝595）　2021年（n＝675）

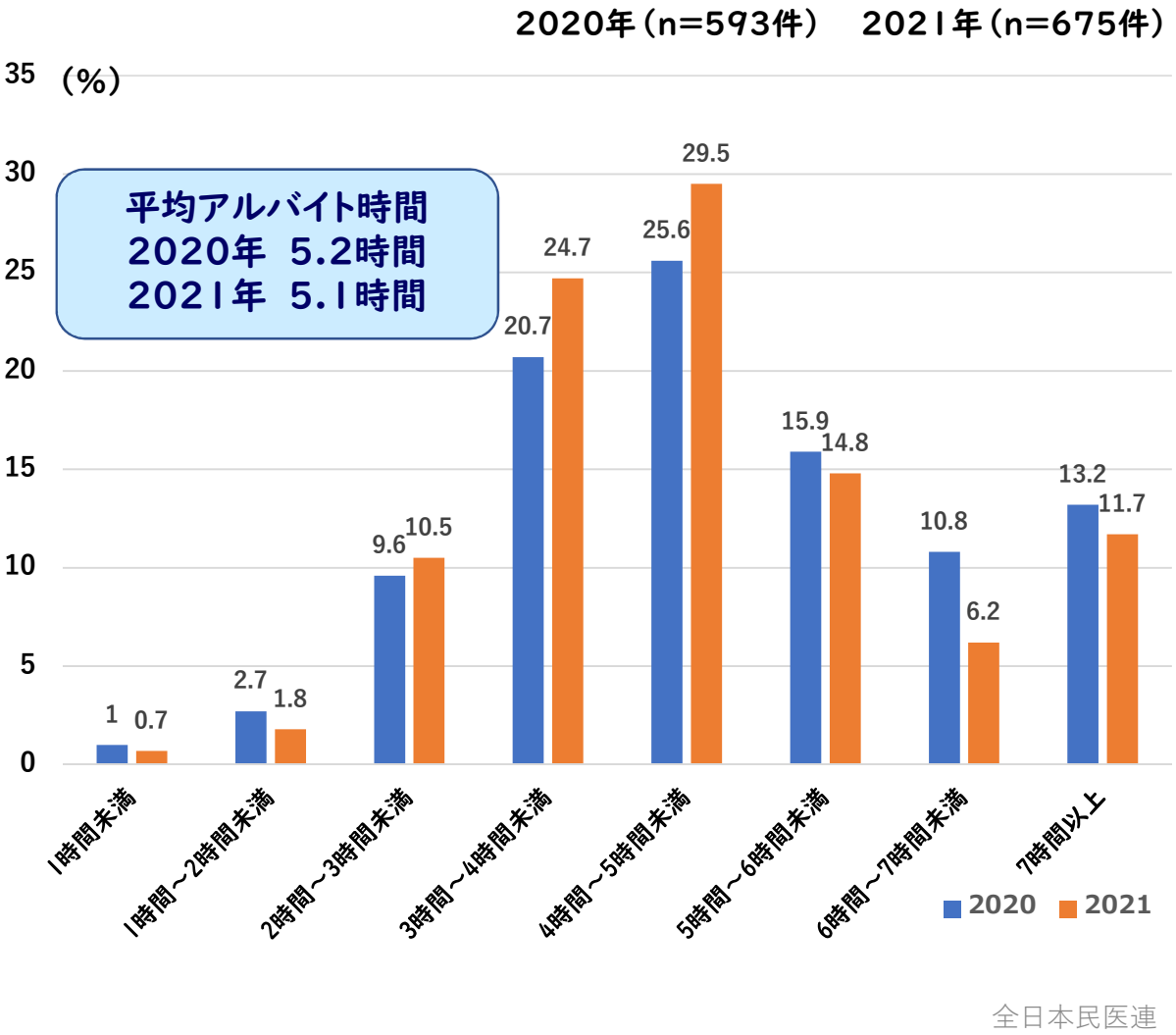


5.アルバイト収入の変化について

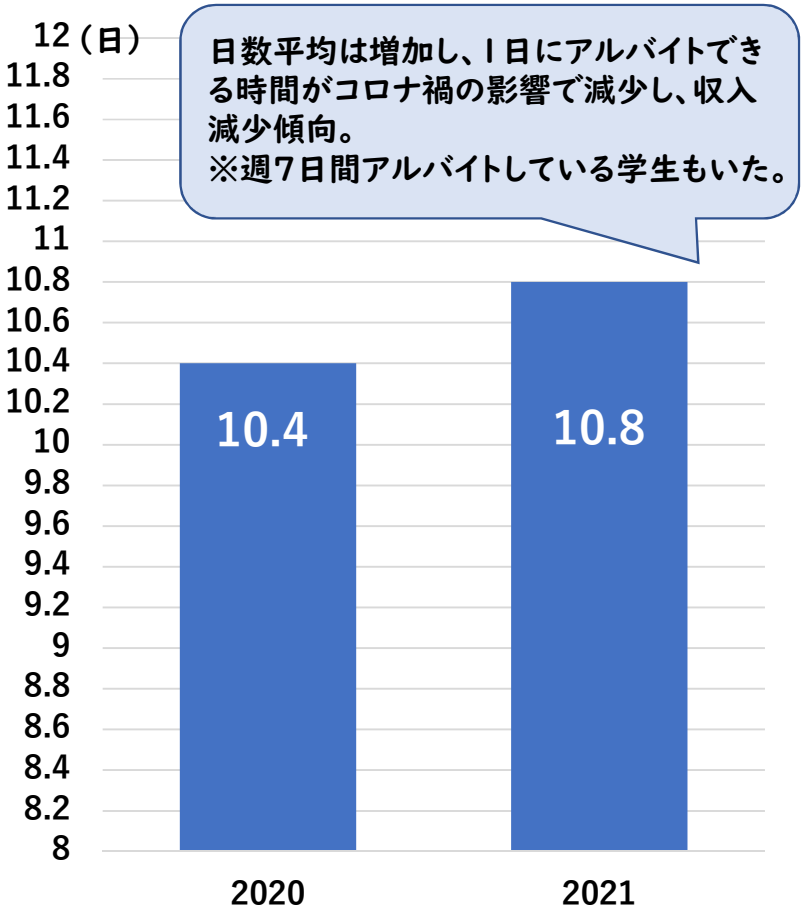


アルバイト収入が減った学生
53．3%

6.一日のおおよその平均アルバイト時間は何時間ですか？



7.アルバイトの日数について（月平均）

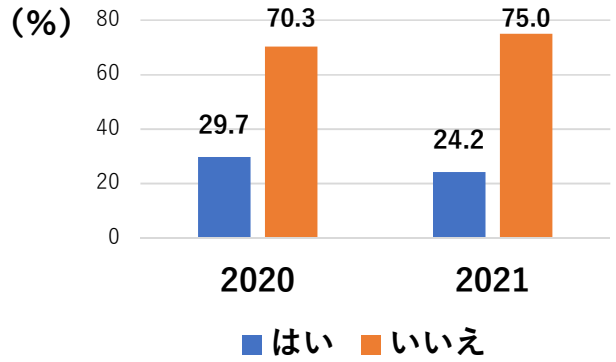


Ⅲ.アルバイトについての小括

- 半数の学生がアルバイトをしている。その内の、半数の学生がアルバイト収入が減ったと回答した。
- 実習中にもアルバイトをしないと生活できない学生が15.4%いたこと。実習中のアルバイトに制限がかかるため貯金をするためにアルバイトを掛け持ちする学生がいることがわかった。
- 実習前にアルバイトが禁止されたり、アルバイト先が無くなる中で、それでも学費と生活費を稼がなければならない状態においこまれていることがわかった。

Ⅳ コロナ禍での生活の変化

1.ご自身の生活環境で困ったことはありますか？



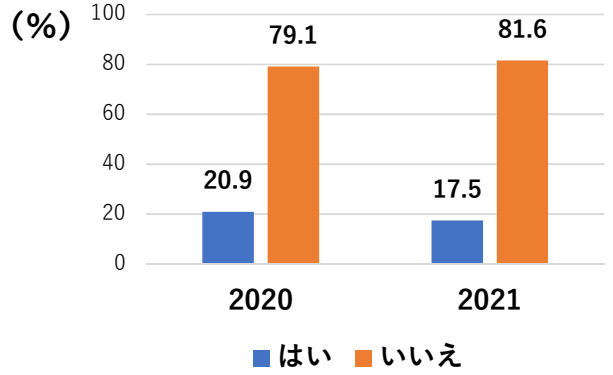
(n=1,324)

●どのようなことを困っていますか？

2021年 n=609

①ストレス増大 37.6%（229名）
②アルバイト禁止
アルバイト収入の減少 30.7%（187名）
③運動不足 15.1%（92名）
④体調不良 11.2%（68名）
⑤その他 5.4%（33名）

2.家族の生活環境で困ったことはありますか？



(n=1,326)

回答者の7割は、経済的な困りごと

●どのようなことを困っていますか？

2021年 n=425

①コロナのリスクが心配 31.3%（133名）
②家族の給料の減少 24%（102名）
③学費の支払い（兄弟等学費が重なる等）19.3%（82名）
④食料の購入（生活費）15.8%（67名）
⑤家賃・住宅ローンの支払い 5.9%（25名）
⑥その他（回答内容次のスライド）3.8%（16名）

2.家族の生活環境で困ったことはありますか？＜その他の回答＞

・親の病気　・受診控え　・入院　・周りからの目
・自粛によるひきこもり　・父親が透析で無職になった
・人間関係がうまくいかずに仕事を辞めて引きこもっている

・看護学生であることを隠さなければいけない

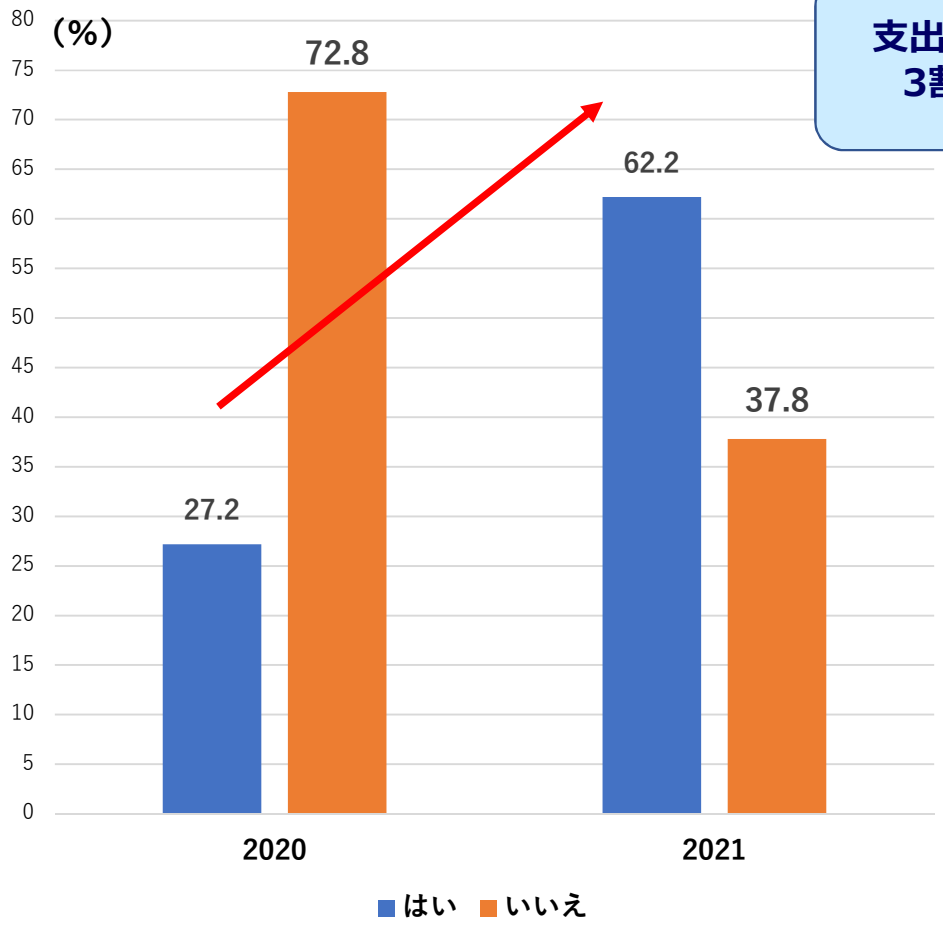
・両親の喧嘩が増えた　・遊びに行けないストレス

・遠くに住んでいる家族に会えない
・遠方に住む家族の手術や入院の手続きが、コロナの影響で複雑化する

・子供の学校時短
・子どもの気分転換や学力低下の心配

・自宅でオンライン授業を行なっているため、妹もオンライン授業となった時にネット環境が重なりそうになり心配だった。

3.授業料やその他、学業のための支出に影響はありますか？



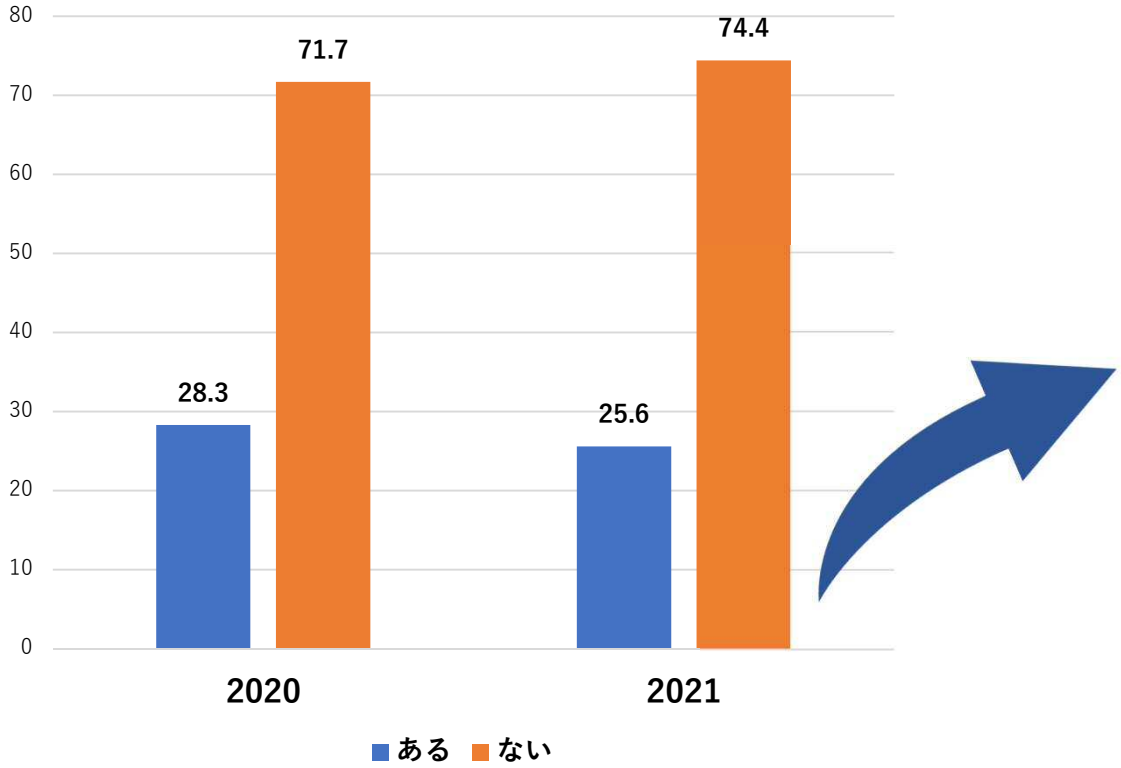
支出に影響ありが、
3割➡6割へ倍増

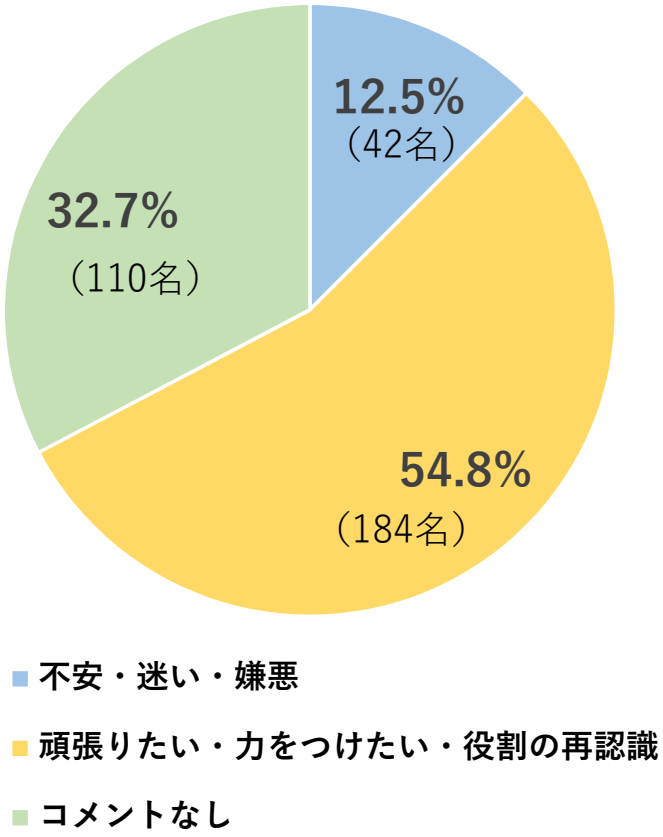
2021年（n=1,297）

●どのような影響がありましたか？

①生活費　360名
②コピー機のカートリッジ購入が負担　182名
③授業料の支払いが困難　181名
④教科書などの購入が困難　141名
⑤文房具等の購入　119名
⑥資料の印刷用用紙の購入が困難　88名
⑦その他　173名

4-1　新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、自身の医療観や目指す看護師像に変化はありますか？　（2020年　n=1,115　2021年n=1,315）





4-2 自身の医療観や目指す看護師像で変化したことは何ですか？ 226件の回答

＜頑張りたい、もっと力をつけたい、役割の再認識＞

・医療従事者としての感染予防の重要さ、責任の再確認が出来た。
・もっと多くの人を救いたいと強く感じました
・面会できないご家族や患者様の思いを尊重・理解し、寄り添うことを大切にしようと思った。
・看護師はなくてはならない職業
・素早く的確な看護を提供出来る看護師
・より先進的な知識・技術を身につける必要があると感じた
・より即戦力のある看護師になりたい

＜不安、迷い、嫌悪＞

・本当にこの中で看護師が出来るのかどうか
・分からなくなってきた
・差別されるのではないかという恐怖

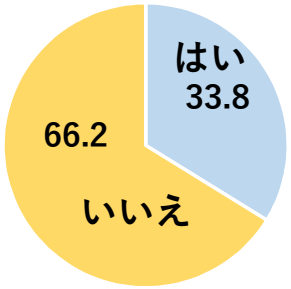
Ⅳ.コロナ禍での生活変化の小括

- 授業料やその他、学業のための支出に影響があったと回答した学生が、6割と倍増（昨年比）した。
- 家族の生活環境で困ったことがある学生のうち7割が経済的な困りごとであった。
- 自身の生活環境での困ったことがある学生のうち、ストレス増大37.6%(229名)、体調不良11.2%(68名)と回答。心身面の支えを必要とする学生が生じており、世帯年収が低い学生ほど、高い比率になっていた。
- しかし、このような困難な事態の中で、看護職に就くモチベーションを更に高めている学生が存在することがわかった。この想いを何としても未来につなげたいと考える。

Ⅴ　コロナ禍での学業・実習について

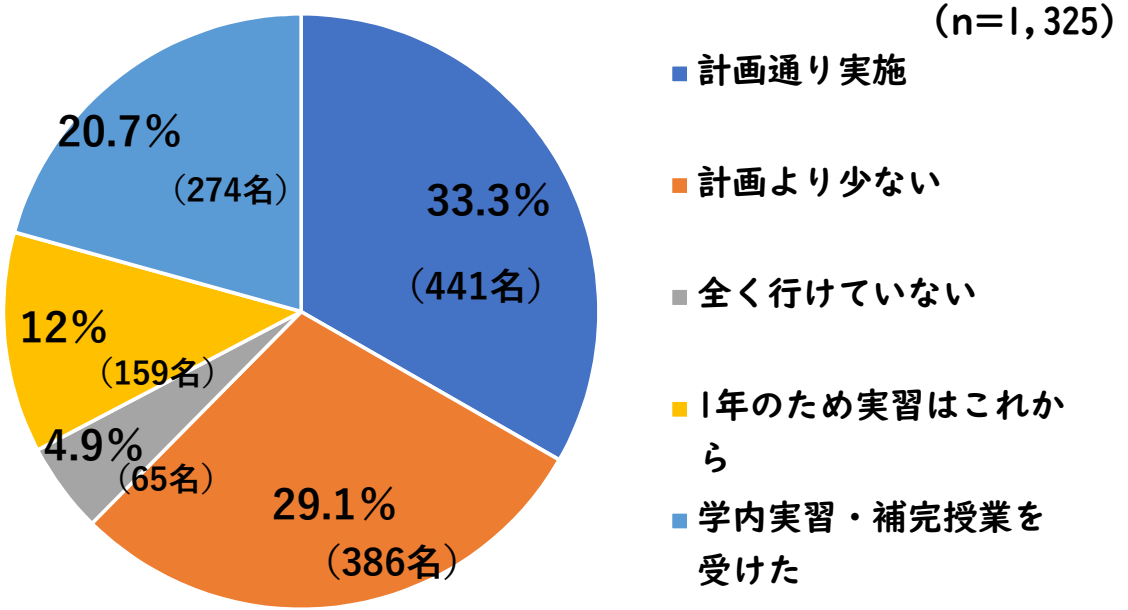
1.実習で困っていることはありますか？

（n=1,317）



2．2021年4月より、実習は行われていますか？

（n=1,325）

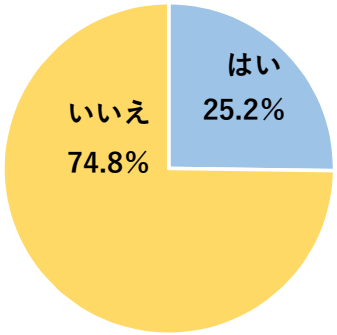


●どのようなことに困っていますか

①臨地実習に行けない
②リモート増による看護技術の練習不足
③紙上事例が増え、経験値が低い
④実践不足
⑤交通費の負担（支出増）　　など

実習が計画通り行われなかった看護学生は、9割

3．実習前や実習中に実習病院からPCR検査を求められましたか？（n=1,285）

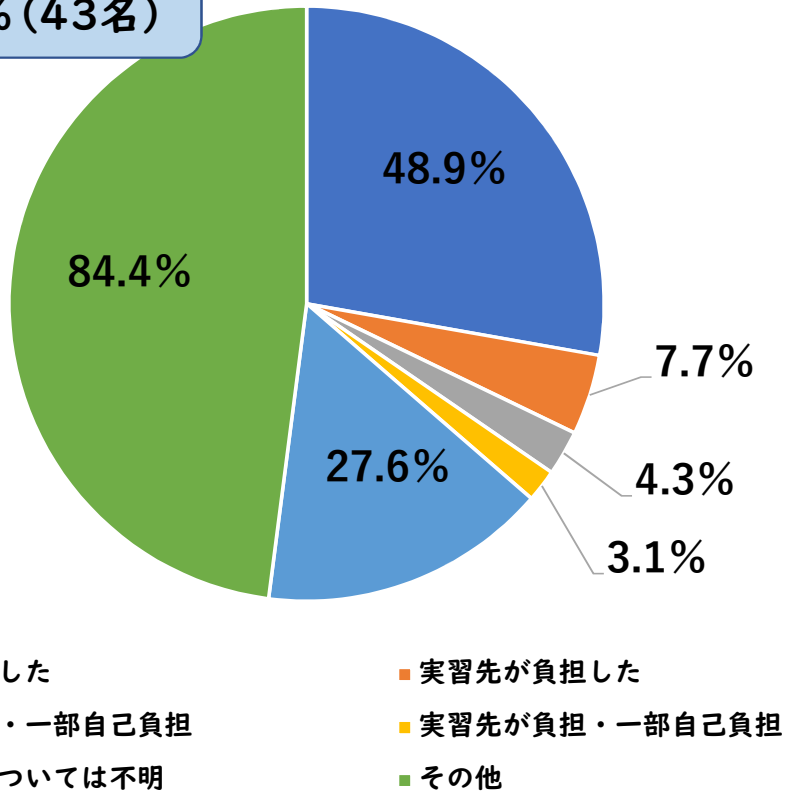


4人に1人の学生が、PCR検査を求められた。

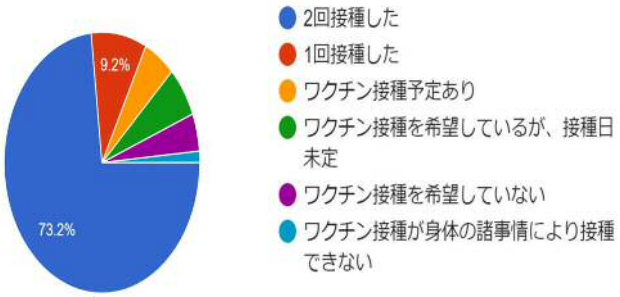
4．PCR検査の費用負担について。

（n=323）

PCR費用負担を求められた学生14%（43名）



5．ワクチン接種について（n=1,330）



ワクチン接種希望しているが接種できていない学生83人（6.3%）

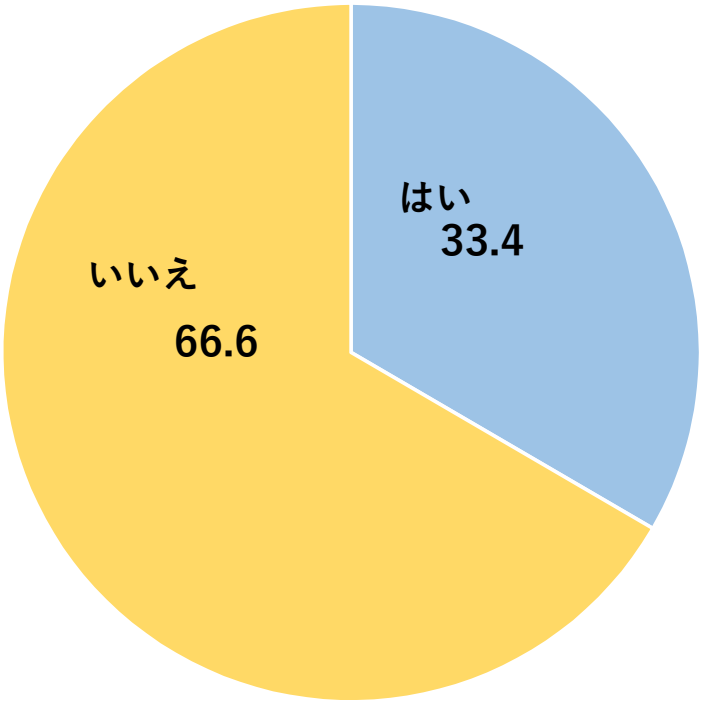
6.授業・講義（オンライン対応）で　困っていることはありますか？　n=1,331

はい　24.9%（331人）

・集中しずらい。
・内容が頭に入らない。
・学びが浅い。
・学習が身についているのか不安。
・自分の学力が付いてる自信が無い。
・対面と違い、授業のスピードについていけない。
・分からないことがあってもすぐに質問できない。
・オンライン授業は仕方がないが、一方的なものになりがちなため「分からない」が増えている気がする。
・講師もマスク着用のため聞き取りづらいことがある。
・演習が出来ず、技術に不安があるまま実習が始まってしまう。
・回線の常態が不安定で聞き逃すことがある。
・電波が悪くなるなどして、途切れ途切れになって困る。
・通信費が高い。

7.新型コロナウイルス感染症拡大に関して、自身が不快な感情を抱くような事例はありましたか？

（n＝350）



●事例は、どのような事例でしたか？

①ワクチンを打たないと実習に行けない
②マスクをしていない人へ向けての罵倒
③医療従事者へ向けての差別
④くしゃみをする時だけマスクを外す方がいた
⑤感染するのではないかと言われた
⑥オリンピックの強制開催
⑦さまざまな対策が不十分であること
⑧何の解決もしてないこと

8. コロナ禍でも、心の支えや力となった体験、励みになったこと　n=400

・患者の笑顔
・コロナで家族に会えなかったから「あなたがいてくれて嬉しかった」と受け持ち患者に言われたこと
・少しでも病棟に行けて、患者とコミュニケーションを取れたこと
・テレビ等でコロナ禍で働く医療従事者を見て、勇気をもらえたこと
・友達と共に頑張れること。
・同じ目標に向かって頑張るクラスの仲間
・友人が看護師を目指す私を電話で応援してくれたこと
・オンライン明けに友人と同じ空間で学習ができること
・10万円給付
・学校の生徒に向けた、地域の方々からの支援物資やカンパを沢山頂けたこと。
・自治体からのナプキン配布
・好きなアイドルが医療従事者に支援や応援をしてくれた。
・みんな夢に向かって頑張っていると思えること

Ⅴ.コロナ禍での学業・実習についての小括

- 9割の学生は、計画通りの実習が行われていないと回答。
  実習で困っていることがあると回答した学生は3割。
- 実習中に4人に1人の学生がPCR検査を求められ、その内14%（43人）が費用負担をしていた。厳しい生活状況の中で、支出が更に増加している。
- 4人に1人の学生が、オンライン授業で困っていると回答。
  （集中しにくい、学習が身についているのか不安など）
- コロナ禍でも、心の支えや力となった体験、励みについて3割（400人）の学生から声が寄せられた。
  （実習での体験、友人とのつながり、奮闘する医療者の姿、給付金など）

Ⅵ 要望

●看護学校や自治体に要望したい事はなんですか？

（n＝282）

①現金支給（経済的支援）	212名
②学費免除	177名
③その他	70名

要請事項

１．「学生支援緊急給付金」を復活させることを求めます。
　　学校が推薦したすべての学生に支給するため、その際の適用条件の緩和と
　　各学校への配分額の撤廃を求めます。

２．「高等教育修学支援制度」の改善を求めます。
　　①高卒２年以内としている対象者の規定を廃止し、社会人経験者も対象とすること。
　　②機関認定の更新手続きの簡素化を行うこと。

３．感染を防ぎ学生に教育の機会を保障するため、国の責任で必要なＰＣＲ検査を公費
　　で実施することを求めます。

４．国の教育予算を増やし、学費無償化、補助金の拡充、看護学生への給付型奨学金
　　の創設を求めます。

全日本民主医療機関連合会

〒113−8465
東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター7階
職員育成部 西村峰子・宮川喜与美
TEL 03-5842-6451 min-ikusei@min-iren.gr.jp
きらり看護 https://kirarikango.com/